

<歴史的な近現代建築物> 国土交通大臣賞・耐震改修優秀建築賞（2018年度表彰）	
案 件 名	港区立新郷土資料館等複合施設
評定の区分	耐震診断及び耐震改修計画の評定
評定番号	BCJ-耐震診断-240 （2016年5月）
所 有 者	港区
改修設計者	（基本設計・実施設計監修）株式会社 日本設計 （実施設計／建築）大成建設株式会社一級建築士事務所＋香山壽夫建築研究所＋株式会社 JR 東日本建築設計 （実施設計／構造）大成建設株式会社一級建築士事務所
建築物概要等	
建築物所在地	東京都港区白金台
用 途	郷土資料館、子育て関連施設、区民協働施設 他
延べ面積	約 15,155 m ²
最高部高さ	38.70m
階 数	地上6階、地下1階、塔屋4階
構造種別等	鉄骨鉄筋コンクリート造（非充腹形）
竣 工 年	1938年（昭和13年）
建物紹介サイト	https://www.minato-rekishi.com/building/index.html
計画の概要等	
【耐震改修の目的等】	
1938年に建設された旧国立公衆衛生院を港区が取得し、郷土歴史館・区民協働施設等からなる複合施設に改修したものであり、設計は当時、東京大学教授であった故内田祥三氏による。港区としては、港区指定有形文化財として保存し、改修を施して活用することとした。改修にあたっては、安全性確保のため耐震改修を行うこととされた。	
【耐震診断・改修計画評定のポイント】	
耐震改修は、建物の建設時期及び港区指定有形文化財であることを考慮し、意匠に配慮した強度型の補強としている。保存エリアを考慮しつつ、全体としてのバランスを考え、鉄骨ブレース補強、新設壁、増打壁補強を配置している。建物形状が逆U字形状であることを考慮し、北棟、南棟、中央棟でゾーニングによる評価も合わせて行い、スラブの移行せん断力を見込んで耐震性の評価を行う。	
	
ガラスを併用した「T.G-Wall」による耐震化	
©三輪晃久写真研究所	

